

国民同胞

発行所
 社団法人 国民文化研究会
 (九州←→東京←→全国)
 東京都渋谷区東1-13-1-402
 振替 00170-1-60507
 電話 03-5468-6230
 F A X 03-5468-1470

月刊「国民同胞」編集部
 毎月一回10日発行
 購読料 年間2000円

国会始と国柄

人権・平等・平和を喧伝する前に

山口 秀範

「あちこちde寺子屋」を！と呼びかけ、偉人伝を大人向け子供向けに語る活動を展開してある中で、改めて人権・平等・平和といふ三つの観念が、現代日本人の日常生活まで歪めてあることに茫然とする。

「すべての子供はオートノミー(自己決定権)を有してをり、本人の嫌がることを強制するのは虐待」と大学で教へられた教師たちは、授業中に席を立つ児童さへも注意できず、学校に足の向かない我が子の意思を「尊重」する親が不登校児を生み出してゐる。しかし一方で、礼儀や規律・けぢめを幼児期から身につけさせる理念を持った幼稚園で行ふ私どもの「園児向け寺子屋」では、姿勢正しい五歳児たちが三十分以上も講師の話

に聴き入り、最後には先人の言葉(例へば西郷さんの漢詩など)をあつと言ふ間に覚えてしまふのである。きちんと躡けて適切に導くことで子供たちの知情意がすくすく伸びていく様を見るにつけ、大人の怠慢から人格陶冶の芽を摘むことこそ「子供の人権侵害に当る」と声を大にしたい。「差別のない平等な社会をめざす」といふスローガンも固定化して「教師は生徒と同じ目線で付き合ふ」のが良しとされ、家庭でも「友だち同士のやうな親子関係」が理想だといふ。本来子供に必要なのは、昔も今も尊敬出来る存在・お手本となる人物なのであるが、新成人へのアンケート「あなたの尊敬する人」で上位に登場するのはスポーツ選手と芸能

人ばかりで、父母・恩師が姿を消して久しい。さらに歴史上の英雄偉人をお手本にしようにも、そんな人物があつたことさへ誰も教へてくれない。「生命永らへる」ことに最大価値を置くのも現代日本の通弊で、大量に人の命が奪はれる戦争、特に「太平洋戦争を一方的に起した戦前の日本人」は悪の権化と決め付けられる。しかし「もし一人の人命が地球より重いといふのなら地球の三百万倍(大東亜戦争での戦死者数)の価値ある人命が、そこに赴き、そこに斃れたといふ厳肅な事実」(伊勢神宮の元少宮司、故幡掛正浩さんのお言葉)をこそ、後世の私たちは重く受け止めるべきであらう。「寺子屋」で努めて採り上げる軍人の生き方を、自虐史観に染められた筈の若者の多くが、自分たちより高い精神性があつたと感じ取り敬意を払ってくれる。人命尊重をお題目のやうに繰り返すだけでは、子供たちを巡る痛ましい事件は後を絶つまい。

○

一月十五日午前恒例の「国会始の儀」が宮中で行はれた。今回初めて一時間余のテレビ実況放送を拝見し、古式ゆかしい新春行事に触れて大きな感動を覚えた。両陛下は、預選者十名の歌にちつとお耳を傾け、お心を寄せてをられたが、十首の歌を通じて、様々な生業に勤しみ家族睦み合ふ人々や、四季折々各地で大自然と共に生きる多くの国民の声なき声を偲ばれる大変尊いお姿と拝した。古来、統治の意で「聞こし召す」や「知らず」が用ひられた経緯に思ひを致したのは私だけではあるまい。「和歌の下の平等」を実現しつつも、皇后陛下のお歌は二回そして天皇陛下の御製は全員起立の上三回の朗詠が行はれるところに、厳然たる「君臣の別」を保つてゐること、年若い預選者から順に立ち礼儀正しく振舞ふといふ型にはまった美しさなど、四百年以上この形で続いて来た伝統的儀式から学ぶものは多い。

このやうに長閑で平和な精神文化を培つて来た穏やかな民が、欧米を敵に回して先の熾烈な戦争に赴いたのには、余程已むにやまれぬ状況だつたのであらうと憶念する方が正常な感覚ではないか。この実況番組を全国の小中学校で教材にすれば、子供たちは我が国の真の姿―国柄―を直感するに違ひない。教育再生の勘どころは、先人から受け継いだものの中にこそ見出されるのである。

(株)寺子屋モデル代表世話役社長